



秩父百年の森通信

NPO 法人秩父百年の森は、2015年8月で結成6年目を迎えることができました。多くの皆様のご支援により多岐にわたる活動を実施していただくことができました。昨年5月には国土交通省より「みどりの愛護」大臣賞、今年2月には共同通信社と地方紙47社で主催する「第6回地方再生大賞優秀賞」をうけることができました。また、森林活用の重要な柱である木材流通システムの新たな試みに取り組み、このシステムによる秩父材には私たちNPOと同じ名前の商標が標示されることになりました。昨年12月19日の臨時総会では、これまで懸案であったNPO法改正にともなう定款の改定を行うことが、新たな一歩を踏み出すことができました。今後は事務局体制を強化しさらに活動を充実させていきたいと思っておりますので、よろしくご協力お願いいたします。



昨年度の主な活動は次の通りです。

- (1) 山吹沢県有林
- (2) 原石山森林再生プロジェクト
- (3) ふたばの森
- (4) 農園ホテル「秩父おもてなしの森づくり」
- (5) 苗づくり
- (6) 11.7 第4回「森を語ろう」シンポジウム
- (7) 11.21「未来につなぐカエデの森づくり」
- (8) 連携事業
 - i 千鹿谷郷「ひなた村」山椒プロジェクト
 - ii 第3のみつ
 - iii 秩父樹液生産協同組合

(1) 山吹沢県有林

山吹沢県有林は、群馬県に県境を接する埼玉県のもっとも北西部あたる場所に位置しています。秩父市内から車で1時間半かかりますが、荒川の源流の一つ、中津川の水源林を形成している緑豊かな場所です。標高は900mから1300mです。2002年より毎年春と秋、人工林の皆伐跡地にブナ、ミズナラ、イタヤカエデなどを植林し、多様な樹種による森林再生を進めてきました。

14年目になる2015年は、補植、観察、ツル切りといった保育活動を中心に実施しました。初年に植栽したブナも大きくなり、明るく豊かな広葉樹の森を形成しつつあります。2016年5月には、これまで植林してきたブナの生育調査を予定しています。



(2) 滝沢ダム原石山森林復元事業

滝沢ダム建設のための岩石採取と残土埋め戻しによって生まれた広大な平面は、シカの食害のため植生の回復がほとんど見られない状態が続いていました。2013年シカ防護ネットを3か所に設置し、その中にカエデやミズナラなどの種2万粒の播種と苗木の植栽を行い、植生の回復と森林の復元を目指しています。2015年は、ネット補修、巡回を中心に活動を行いました。種子から発芽したもの、苗木を植栽したもの、それぞれ生育していますが、固く締め固められた土はたやすく植物の更新を許さない状況です。夏場には強い直射日光が降り注ぎ焼き



付くような暑さが連日続きますので、シカ防護ネット内に茂り始めた草本は当面刈らず、幼樹に多少なりとも日陰をもたらすよう配慮しています。

(3) ふたばの森

どんぐりから始まる森づくり。ふたば幼稚園の子どもたちと一緒に、2010年から秩父市有林を借りて森づくりを行っています。11月7日にはNOKグループ、アドビ社から参加者も得て、コナラの苗を100本植栽しました。また、サイサン環境保全基金の助成をうけて絵本『ふたばの森とこどもたち』を作ることができました。この絵本は自分たちで育てた苗を持つ子どもたちに、なぜ木を植えるのか、園長先生が語りかけたお話がもとになっています。



(4) 農園ホテル「秩父おもてなしの森づくり」

秩父の代表的観光施設である農園ホテルとNPOが連携し、スギやヒノキが伐採されたホテル西側の斜面約2ヘクタールを緑化する取り組みです。対象地は西向きの斜面で、市街中心部よりよく見えるところに立地しています。斜面の緑化にあたっては、「秩父おもてなしの森」として秩父市民や観光客にも親しまれる森となることを目指しています。初年度は、11月28日にアジサイ100株、ヤマザクラ50株、12月6日にアジサイ50本、カツラ3本の植栽を行いました。



(5) 苗づくり

植林のための苗木の育成を5か所の苗畑で行っています。今年は、6～10月には草刈りを、11～12月には植栽のための苗の根巻き・出荷を行い、耕耘をして次の育苗に備えています。

名称	広さ	主な用途と樹種
苗畑1号地	20m×15m	イタヤカエデ・イロハモミジ・コナラなど育苗
苗畑2号地	30m×20m	実生・ポット苗の育成（シカ柵あり）
苗畑3号地	91m×20m	イタヤカエデ専用苗畑
苗畑4号地	50m×40m	トチノキ・ミズナラ・カツラの専用苗畑・
苗畑5号地	40m×25m	サンショ育成



(6) 第4回「森を語ろう」シンポジウム

11月7日（土）に秩父市立荒川中学校「ふれあい講演会」にあわせて、中学生たちと森を語るシンポジウム「第4回森を語ろう」を開催しました。第一部基調講演は日本薬科大学の高野先生による「薬木を通して見る秩父の森のおもしろさ」、第二部パネルディスカッションでは同大学の野澤先生も加わり、中学生代表3グループの発表と質疑を通して秩父の森の恵みについて、全校生徒と一緒に考えました。キハダの味見をしたり、冬虫夏草の話の聞いたり、森の不思議や可能性を知ることができました。将来秩父の森を使って仕事をする子供たちが出てくることを祈っています。



(7) 未来につなぐカエデの森づくり

2015年度の最大のイベントである大滝槌打間伐地のカエデ植林活動を地域の中学生を中心に行いました。11月21日、秩父樹液生産協同組合とNPO 秩父百年の森が主催し、アドビシステムズ株式会社、伊佐ホームズ株式会社、大滝山林振興協議会から協賛をえて、カエデの植林活動を実施しました。当日は、樹液組員、NPO 会員、伊佐ホームズ、荒川中学校、行政関係者、ホームページから問い合わせをいただいた方々、総勢50名が大滝槌打地区に集まり、イタヤカエデ150本とイロハモミジ50本を1



時間かけて植栽しました。快晴の穏やかな小春日和の中、とても充実した植林活動になりました。

(8) 連携事業

i 千鹿谷郷「ひなた村」山椒プロジェクト（ひなた村との連携事業）

健康・生きがい・定住化を目的とした「千鹿谷ひなた村」と共に、秩父地域の豊富な森林資源を活用し、特産品化を進めて新たな森林産業を育成していくために、山椒プロジェクトを今年から開始しました。

9月から竹割、とげなし山椒植栽等具体的な活動を開始し、11月29日には、会員8名の参加を得て、秩父地域で採取した山椒の植栽を実施し、その後懇親会を開催しました。

今後は、ひなた村の山椒植栽を増やししながら、苗畑での苗木育成も行っていく予定です。



ii 第3のみつ

平成22年度総務省過疎対策事業の一環として始まった新たな養蜂技術への取り組みは、第3のみつ研究会として進められています。森の木の結実を促すとともに安全なハチミツを得る「森林養蜂」として、また山間地の地域活性化の手かかりとして、など様々な視点から養蜂技術を深めてきました。このような中で、その評価が高まりつつあります。秩父にUターンした会員の井原さんが立ち上げた会社TAP&SAPでは、メープルシロップとともに第3のみつを主力商品として販売しています。若者を核にしながらか地域に根差した新しいビジネスが始まろうとしています。詳しくはTAP&SAPのホームページをご覧ください。

TAP&SAP ホームページ : <http://tapandsap.jp/>



iii 秩父樹液生産協同組合の新たな取り組み

●キハダサイダーの開発

秩父樹液生産協同組合では、カエデを利用した活動を継続してきていますが、新たな森の恵みとしてミカン科のキハダを使ったサイダーを商品化することができました。キハダの内皮部は、古くから生薬（黄檗おうばく）として使われ、百草丸などの胃腸薬としても有名です。キハダはカエデの自生分布と重なり、秩父では川沿いや尾根の北斜面によくみられる樹木です。日本薬科大学との連携により、手軽に飲めるサイダー（商品名：「今日もスッキリキハダののが味」）として、秩父の森の恵みの一つが加わることになりました。



●木材流通トレイサビリティシステムの取り組み

2014年大滝槌打3林班約50ヘクタールを対象に森林経営計画を策定し、そのうち6ヘクタールの間伐事業に着手しました。カエデなどの広葉樹の活用とともに、これまで育ててきたスギやヒノキなどの人工林も無駄なく活かし、経済的に自立する取り組みです。このような中で東京の住宅メーカーと連携することで、秩父の林業に新たな道を拓くことができました。原木を提供する樹液組合、製材工場、プレカット工場、住宅メーカーが、一連の木材流通を連携して管理し、家を建てる施主にとっても「顔の見える」安心できる木材流通の仕組みづくりを実現しました。このため樹液組合では伐り出され造材された原木1本1本の小口に、所有者、伐採期日、樹種、材の長さ、材の太さの情報を折り込んだQRコードを貼付しています。それぞれの企業が連携して



少しでも多く山にお金を戻すこの取り組みは、2015年度林業白書にも紹介されています。「伐る林業」と「伐らない林業」を共に進める新しい林業のかたちがよくやく緒につきました。

◆メディア掲載情報

- 2016.3.10 東京新聞でカエデ樹液プロジェクト(シュガーハウス)が掲載されました。
- 2016.03.06 TOKYO FM 「いのちの森 voice of forest」へNPO 秩父百年の森 田島理事長が出演しました。
- 2016.03.06 日本テレビ「世界の果てまでイッテQ」でイモトさんがカエデ樹液プロジェクト(樹液採取作業)の体験を放送されました
- 2016.03.02 日本テレビ「news every.」でカエデ樹液プロジェクト(樹液採取作業)が報道されました。
- 2016.02.19 第6回地域再生大賞優秀賞を受賞しました
- 2016.02.07 TBS テレビ「サンデーモーニング」でカエデ樹液プロジェクト(樹液採取作業)が生中継されました。
- 2015.1.19 マガジンハウス COLOCAL で井原愛子著「ちちぶメープルプロジェクト」が連載開始しました。
- 2015.11.21 NHK 首都圏ネットワークで「未来につなぐカエデの森づくり」の様子が放送されました
- 2015.09.25 におい・かおり環境学会誌 2015No.5 Vol.46 に「豊かな四季に彩られた秩父の森を守る」が掲載されました
- 2015.09.01 環境情報誌「SAFE」(三井住友フィナンシャルグループ)のエコライフ通信 Vol.1 1 3 9月号に「森を生かし森とともに生きる」掲載されました
- 2015.06.30 NHKニュースWEBで炭酸飲料「今日もスッカリ キハダのいが味」が掲載されました
- 2015.06.30 キハダプロジェクトより炭酸飲料「今日もスッカリ キハダのいが味」の新発売の発表
- 2015.06.05 埼玉新聞において会員の井原さんのコラム「秩父キトヒト(木と人)」連載(隔週)が始まりました
- 2015.05.31 第26回「みどりの愛護」功労者国土交通大臣表彰を受賞しました
- 2015.04.14 J-WAVE[POP UP]内で「第3のみつプロジェクト」が取り上げられました
- 2015.04.02 NHK ひるまえほっとで大滝中学閉校のニュースの中でカエデ体験学習の様子が紹介されました
- 2015.04.01 NHK 首都圏ネットワークで大滝中学閉校のニュースの中でカエデ体験学習の様子が紹介されました

◆事務局だより

今年度の春より横瀬駅近くに新たな事務所を設置し、事務局の充実を進めてまいります。体制が整い次第お知らせいたしますので、どうぞよろしく願いいたします。

これから会員の皆様に多くの活動内容をお伝えできるようにしていきたいと考えています。そして、秩父地域の豊かな森林に支えられた活動をさらに広げていきたいと思っております。

会の活動を多くの方にも知ってもらうためにも会員を募集しています。皆さんの周りの方にもお声をかけください。

<会員募集>

豊かな森がいつまでも続くように、いま山の人、里の人、街の人たちが共にかかわることがとても大切になっています。私たちNPO 法人秩父百年の森は、4つ活動を通して森とかかわり、森を生かす試みを続けています。

私たちと一緒に活動してみませんか。入会は入会申込書に記入のうえ事務局までご連絡ください。

- (1) 山村と都市との交流促進に関する事業
- (2) 持続可能な森林・林業モデルの形成に関する事業
- (3) 環境教育支援に関する事業
- (4) 地域活性化ビジネスモデルの形成に関する事業

正会員 年会費 3,000円 (当会の活動に直接参加していただける方)

賛助会員 年会費 1口 3,000円 (当会の活動趣旨に賛同していただける方)

サポート会員 (活動ごとにお手伝い頂ける方を登録しています)

<お便り募集>

会員の皆さんからご意見、ご感想、活動原稿をお待ちしております。